

# 令和3年第1回定例会（2月議会） 産業観光委員会・分科会 提出資料

令和3年2月10日  
観光文化スポーツ部

## 【所管事項関連】

観光振興課	秋田県市町村未来づくり協働プログラム ～大館市プロジェクト～ 「ハチ公と歴史に触れる交流人口拡大プロジェクト」 事後評価について -----	1
文化振興課	秋田県市町村未来づくり協働プログラム ～横手市プロジェクト～ 「マンガ原画と増田の町並みを活かした交流人口拡大プロジェクト」 事後評価について -----	3
交通政策課	秋田臨海鉄道(株)の事業終了に係る手続き等の状況について --	5



秋田県市町村未来づくり協働プログラム ～大館市プロジェクト～  
「ハチ公と歴史に触れる交流人口拡大プロジェクト」事後評価について

観光振興課

### 1 プロジェクトの目的

大館市は、ハチ公に代表される「秋田犬」や国の伝統的工芸品に指定されている「大館曲げわっぱ」のほか、豊富な森林や鉱山を基盤とした産業の歴史など多彩な地域資源を有しているものの、情報発信や受入態勢の整備が十分とはいえず、通過型の観光地となっていることが課題である。

このため、交通の要所であるJR大館駅前を市民と観光客の「観光交流拠点」と位置付け、本物の秋田犬を「見て、楽しめる」施設を核とした拠点施設を整備するとともに、集客力のあるレールバイクの更なる活用を進めるほか、トロッコ列車を運行するなど、周辺市町村との連携強化による広域観光の推進や、海外からの誘客も視野に入れた受入態勢の整備を進めることにより、交流人口の拡大を図る。

### 2 プロジェクトの概要

(単位：千円)

事業名	総事業費	うち交付金	実施年度
1. 人が集い、賑わう交流拠点づくり	1,068,668	200,000	
(1)観光交流施設「秋田犬の里」の整備	699,572	131,800	H28～H30
(2)「秋田犬の里」周辺の環境整備	364,593	68,200	H28～R1
(3)トロッコ列車の整備	4,503	0	H30～R1
2. 賑わいの創出と情報発信の強化	144,438	0	
(1)ハチ公・秋田犬のまち「大館(ODATE)」のPR強化	132,626	0	H28～R1
(2)民間団体等と連携した駅前の賑わい創出	6,050	0	H29～R1
(3)歴史と文化のまち歩きなど市内周遊の推進	5,762	0	H28～R1
合 計	1,213,106	200,000	

### 3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (H27年度)	目標値 (R1年度)	実績値 (R1年度)	達成率
大館市の観光客数(人) ※日帰り客数(観光地点別入込客数)	735,000	900,000	1,052,000	117%
観光の振興の市民満足度「あなたが採点する行政の通信簿」(5点満点中)	3.257	3.400	3.030	89%
交流拠点施設の利用者数(人)	—	100,000	315,000	315%

※大館市の観光客数の基準値は、H26年度実績。

### 4 経済波及効果分析

(単位：百万円)

ハード事業費支出(施設等の整備事業)による経済波及効果	1,592
ソフト事業費支出(観光宣伝等)による経済波及効果	97
プロジェクト成果による経済波及効果	2,187
合 計	3,876

## 5 全体評価

観光客等が秋田犬を間近で見ることができる施設として、オープン初年度で利用者数が目標を大きく上回る結果となり、街の賑わいの創出につながっている。

来館者アンケートでも7割から好評を得ているが、その一方で、秋田犬の展示体制の充実を求める意見のほか、ドッグランや子どもが遊ぶスペース、飲食ブースの整備を求める声があるなど、改善の余地がある。

## 6 今後の推進方針

全体評価や民間アドバイザー（国際教養大学アジア地域研究連携機構 特任教授 名越健郎氏）の意見等を踏まえ、次のとおり推進することとする。

### （1）周辺施設や近隣市町村との連携の推進

周辺施設のみならず、近隣市町村とも連携し、周遊モデルコースの提案などによりエリアでの滞在時間を延ばす取組が必要である。

### （2）修学旅行誘客のためのPRの実施

コロナ禍により、通常の団体旅行やバスツアーが下火になっていることから、新たな誘客対象として修学旅行客の取り込みを目指す。

### （3）秋田犬の聖地としてのPRの展開

民間のノウハウを積極的に取り入れ、より魅力的なコンテンツとしての磨き上げを行うほか、SNSやウェブサイトなどの活用を通じて秋田犬の聖地としてのPRを行う。

秋田県市町村未来づくり協働プログラム ～横手市プロジェクト～  
「マンガ原画と増田の町並みを活かした交流人口拡大プロジェクト」事後評価について

文化振興課

### 1 プロジェクトの目的

「増田まんが美術館」をマンガ原画の収蔵・展示に重点を置いた施設にリニューアルし、マンガ原画収蔵世界一の「マンガの聖地」を目指すとともに、「増田の町並み」とのアクセス環境を整備し、マンガと増田の町並みという他にはない地域資源を活かした一体的な観光拠点として相乗効果を図ることにより、交流人口の拡大につなげる。

### 2 プロジェクトの概要

(単位：千円)

事業名	事業内容	事業費	うち交付金	実施年度
「まんが美術館」施設整備事業	・増田まんが美術館の整備 ・収蔵原画のアーカイブ化 ・収蔵原画の二次利用の研究調査 等	904,619	200,000	H28～R1
「マンガの聖地よこて」推進事業	・小中学生からのマンガ作品の募集・雑誌制作 ・移動マンガ教室 等	15,182	0	H28～R1
「増田の町並み」と「まんが美術館」の回廊整備事業	・「マンガ」「町並み」交流イベントの開催	2,431	0	H28～R1
合 計		922,232	200,000	

### 3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (H27年)	目標値 (R1年)	実績値 (R1年)	達成率
「増田まんが美術館」入館者数(人)	60,000	120,000	142,316	118.5%
「増田の町並み」入込客数(人)	98,257	200,000	123,211	61.6%
収蔵漫画家数(人)	158	178	180	101.1%
収蔵原画枚数(枚)	45,450	100,000	406,669	406.6%

### 4 経済波及効果分析

(単位：百万円)

ハード事業費支出による経済波及効果	1,073
ソフト事業費支出による経済波及効果	55
プロジェクト成果による経済波及効果	643
合 計	1,771

## 5 全体評価

「増田まんが美術館」の入館者数は、リニューアルプロモーション及び特別企画展の開催により目標を上回ったとともに、収蔵漫画家数も目標を達成した。また、収蔵原画枚数は、著名な作家による大規模な収蔵があったため、目標を大きく上回った。

一方、「増田の町並み」の入込客数は増加したものの目標を下回っており、今後は、「増田まんが美術館」を軸として、観光事業者等と連携しながら、観光を始めとした地域の魅力をセットでアピールし、市内回遊性の向上を図ることが必要である。

## 6 今後の推進方針

全体評価や民間アドバイザー（横手市マンガ活用アドバイザー（株）バリュー・クリエーション・サービス代表取締役 佐藤真一氏）の意見等を踏まえ、次のとおり推進することとする。

- 「増田まんが美術館」の魅力増進、認知度向上とともに、「増田の町並み」をはじめとする地域資源と連携したツアー造成や国内外へのプロモーション活動などに取り組み、来訪者の市内回遊性の向上を図る。
- 「増田まんが美術館」のコンセプトの磨き上げを行い、魅力ある常設展示を行うことで安定した集客を実現する。
- マンガの魅力を活用したこどもの教育事業を推進し、マンガ原画についての理解を促すとともに、市内外から社会科見学等の誘致に取り組む。
- 「横手市ミライの漫画家発掘マガジン制作プロジェクト」を引き続き実施し、児童・生徒の構成力、表現力、想像力を育みマンガ文化への理解を深める事業を展開する。

## 秋田臨海鉄道(株)の事業終了に係る手続き等の状況について

交通政策課

県の第三セクターであり、日本貨物鉄道(株) (以下「JR貨物」という。) のグループ企業である秋田臨海鉄道(株) (以下「臨海鉄道」という。) は、来年度以降の取扱貨物が皆無となり、新たな荷主も見込めないことから、本年度末をもって鉄道事業を終了することとしている。

### 1 これまでの経緯

令和2年6月	・唯一の荷主企業が利用停止を申し入れ ・臨時取締役会及び定時株主総会において、事業終了を報告
〃 9月	・臨時取締役会において、鉄道事業の廃止を国に届け出ることを報告 ・国土交通大臣へ鉄道事業の廃止届(令和3年4月1日廃止)を提出

### 2 社員の再雇用

- JR貨物では、臨海鉄道の正社員全員(16名)を対象に、本人の意向を踏まえつつJR貨物グループで雇用することとしており、勤務地や業務内容などについて、現在調整を行っている。

### 3 会社の解散

- 臨海鉄道では、鉄道施設の撤去など清算に要する費用の算定等が完了し、清算方法に関するめどが立った段階で会社を解散することとしているが、時期については現時点で定まっていない。

#### 【主な撤去対象施設】

橋 梁	旧雄物川橋梁：綱鉄道橋 L=137.8m 新城川橋梁：鉄筋コンクリート L=80.0m ほか
軌 道	敷設延長 北線 2.7km、南線 5.6km
踏 切	北線：2箇所、南線：24箇所

### 【秋田臨海鉄道(株)の概要】

秋田湾地区に立地する事業所の貨物を効率よく輸送するため、昭和45年に、日本国有鉄道、県、関連企業が出資して設立。JR貨物との連絡輸送を担っている。

【所在地】 秋田市土崎港西一丁目12-6

【代表者】 代表取締役社長 志水 仁

#### (1) 出資割合

JR貨物	190,000千円	38%
秋田県	180,000千円	36%
その他	130,000千円	26% (7団体)
合計	500,000千円	

#### (2) 施設・運行

路線：北線(2.5km)、南線(5.4km) ※北線は休止中

機関車：ディーゼル式3両

運行：3往復/日

#### (3) 令和元年度決算

経常損益：20,594千円、当期純利益：15,558千円

利益剰余金：156,042千円、純資産：658,744千円

### 【施設概要図】

